

【小学校 算数I(4)】調べたい数量の求め方を数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる

県無回答 6.4%

【中学校 数学7(2)】数学的に表現したことを事象に即して解釈し、

問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる

県無回答 38.0%

【全国学力・学習状況調査より】

自分で論理をつくる力をつけるためには、『単元・領域を通した授業づくり』が大切です。

教材研究 ➤ 実態把握 ➤ 課題化

①「自ら課題に向かう」



- (1) 単元・領域の**ストーリー（系統性）**の中で
本時の役割をとらえ
(2) 目の前の子どもの**実態を正しく把握**し
実態にあった授業を設計します！

教師は…

「教育データを利用した授業設計」

子どもは…

「教育データによる学びの自己調整」

R7 教育データ
活用推進事業
まとめ



追究（学び方は、内容と子どもの実態に合わせて）

②「考えを再構築する」



- 子どもの**思考の流れ**を**見える化**し、
環境設定、発問を**具体的に描**きます！

- (1) 課題→まとめ（結論）の**骨組み**を描く
(2) 子どもの思考を、**具体的に書き出す**
(3) それぞれの子への支援となる**発問**➡

R7 指導改善資料



【**根拠** **解釈** **統合** **発展**】**やさし**かけを考える

振り返り（変容の見える化）

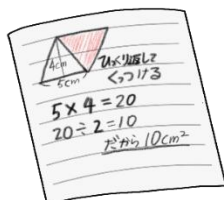
③「学びを次につなげる」



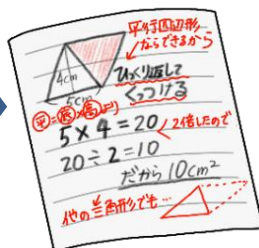
- 効果的な振り返り方法を、
内容、子どもの実態に合わせて**選択**します！

「書き加え」「文章」「対話」「評価表」「録音・録画」「他の問題」…**毎時間、文章で振り返る必要はありません。**どのタイミング・方法が効果的か、単元全体を見ながら、子どもの実態に合わせて検討します。

（例）書き加える
振り返り



たらないところをつけたす



条件を変えても
同じようにできるか振り返る

